

〈凡例〉

1、『南方熊楠全集』は、『全集』と略記した。

- ・ 『全集』＝南方熊楠著／岩村忍・入矢義高・岡本清造監修、飯倉照平校訂、『南方熊楠全集 1～10 巻、別巻 1、2』、平凡社、1971～1975

2、『南方熊楠日記』は、『日記』と略記した。

- ・ 『日記』＝南方熊楠著／長谷川興蔵校訂、『南方熊楠日記 1～4 巻』、八坂書房、1987～1989

3、2004 年 10 月、京都・高山寺において新たに発見された土宜法龍宛書翰は、『高山寺蔵南方熊楠書翰 土宜法龍宛 1893－1922』から引用し、『高山寺資料』と略記した。

- ・ 『高山寺資料』＝南方熊楠著／奥山直司・雲藤等・神田英昭編、『高山寺蔵 南方熊楠書翰 土宜法龍宛 1893－1922』、藤原書店、2010

4、故・岡本清造氏が残した、熊楠による日記の翻刻ノート（1914～1925 年）は、「未刊行日記・岡本清造翻刻」と記した。マイクロフィルムと照合しても現在のところ判読が困難な文字は〔？〕とした。〔 〕内は岡本氏の書き込みである。

5、1919 年の日記は、南方熊楠翻字の会によって翻刻され『熊楠研究 6～8』（南方熊楠資料研究会編、2004～2006）において発表・刊行されているため、これに依った。

6、引用箇所■■は、判読不可能な文字である。

7、南方熊楠顕彰館に所蔵されている、つまり熊楠が所有していた洋書は、『南方熊楠邸蔵書目録』（南方熊楠資料研究会編、南方熊楠邸保存顕彰会、2004）を基に、〔 〕内に所蔵番号を記した。

（例）*Human Personality and Its Survival of Bodily Death part 1 & 2*（『南方熊楠邸蔵書目録』所蔵番号〔洋 150.12〕、〔洋 150.13〕）

8、写真（i）、「各章ごとの関連図」における写真、写真 2、4、6、8、10～14 は南方熊楠顕彰館、写真 1 は国立科学博物館、写真 3 は、南方熊楠記念館所蔵のものを、それぞれ許可を得て使用した。写真 5 は筆者撮影、写真 7、9 は、日本著作権情報センターのアドバイスの下使用した。